

# 広報かわにし

一人口の動き一

9月1日現在

男 6,015人  
女 6,385人  
計 12,400人  
世帯数 2,578世帯

発行所 川西町役場 発行者 川西町 <町長 中村壯吉>  
編集人 星名四郎 印刷所 白南風社 定価 1部5円



川西町合併十周年記念式典

## ◆九月の行事

- 一日 合併十周年記念式
- 二日 土地改良役員会
- 三日 千手神社祭礼
- 六日 水稲評価指導会
- 七日 国保運営協議会
- 七日 町農業委員会
- 七日 保育所監査
- 七日 千手小運動会
- 八日 中仙田保育所竣工式
- 九日 国民年金委員会
- 十日 小白倉えん堤竣工式
- 十日 民生委員会
- 十一日 稲地区敬老会
- 十三日 臨時町議会
- 十五日 敬老の日 山根老人会
- 十八日 家庭の日
- 二十日 秋分の日
- 二十日 シェンゲンカー来町

## 赤い羽根共同募金

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

秋の声をきくと、赤い羽根共同募金が始まりました。

## 広報スポット

郵便受箱を  
備えよう

家ごとに「郵便受箱」を備えよう。

商賈などで休みの日にシャッターをおろすところは、シャッターに郵便の出入口を取りつけると便利で。

るすの窓に郵便受箱がなかったり、開いたシャッターに郵便が入らないと郵便物はいったん郵便局に持ちかえられ、配達がおくれたり遅延が用をなしません。

るすの窓に郵便受箱がなかったり、開いたシャッターに郵便が入らないと郵便物はいったん郵便局に持ちかえられ、配達がおくれたり遅延が用をなしません。

るすの窓に郵便受箱がなかったり、開いたシャッターに郵便が入らないと郵便物はいったん郵便局に持ちかえられ、配達がおくれたり遅延が用をなしません。

るすの窓に郵便受箱がなかったり、開いたシャッターに郵便が入らないと郵便物はいったん郵便局に持ちかえられ、配達がおくれたり遅延が用をなしません。

るすの窓に郵便受箱がなかったり、開いたシャッターに郵便が入らないと郵便物はいったん郵便局に持ちかえられ、配達がおくれたり遅延が用をなしません。

るすの窓に郵便受箱がなかったり、開いたシャッターに郵便が入らないと郵便物はいったん郵便局に持ちかえられ、配達がおくれたり遅延が用をなしません。

るすの窓に郵便受箱がなかったり、開いたシャッターに郵便が入らないと郵便物はいったん郵便局に持ちかえられ、配達がおくれたり遅延が用をなしません。

るすの窓に郵便受箱がなかったり、開いたシャッターに郵便が入らないと郵便物はいったん郵便局に持ちかえられ、配達がおくれたり遅延が用をなしません。

るすの窓に郵便受箱がなかったり、開いたシャッターに郵便が入らないと郵便物はいったん郵便局に持ちかえられ、配達がおくれたり遅延が用をなしません。

# 特集 川西町 10年の歩み

## 31年初代町長に中村壮吉氏

9月1日 千手町、仙田村、橘村、上野村が合併して新町

「川西町」が誕生

9月8日 川西町消防団結成式

9月10日 合併後の初議会招集

議員総数は六十九名であった

9月23日 橘中学校完成

10月1日 町長選挙執行

中村壮吉初代町長に就任

10月30日 第二回町議会、諸条例、規則と予算

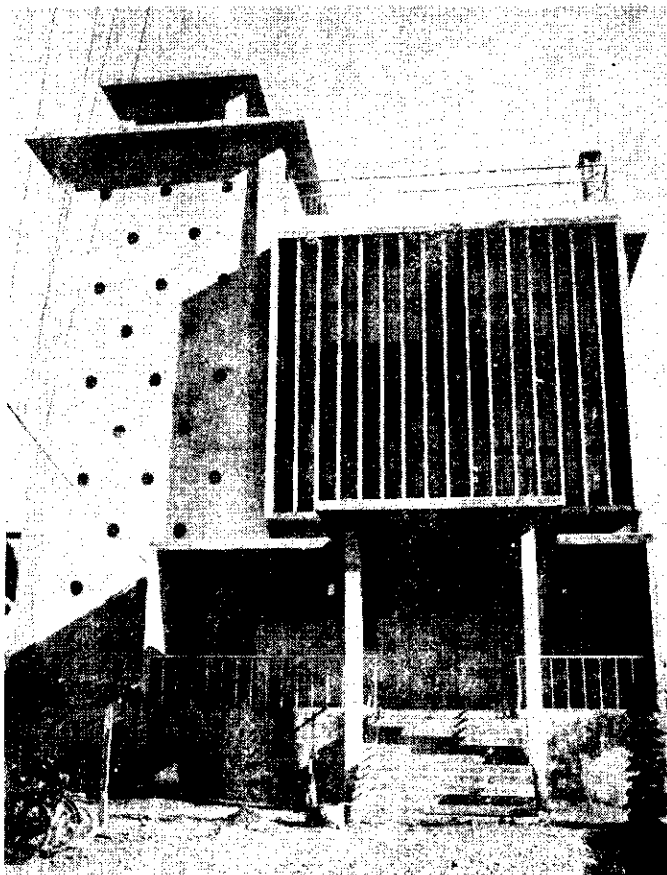
が審議され町政運営の指標が確定した

11月15日 開町祝賀式挙行

11月23日 千手小学校校舎完成



中村町長



川西町役場庁舎

所在地 川西町大字水口沢12番地

合併直前の首長、人口等

|     | 町 村 長 | 人 口   | 世帯数 |
|-----|-------|-------|-----|
| 千手町 | 丸山 恒正 | 4,687 | 914 |
| 仙田村 | 押木 仲治 | 5,202 | 957 |
| 橘村  | 山田 喜雄 | 2,762 | 507 |
| 上野村 | 押木 利成 | 2,200 | 416 |

## 32年 役場新庁舎が完成



農業センター

1月21日 役場機材の一部改革

7月10日 役場新庁舎起工式

8月2日 町議会議員一般選挙を執行。この時は小選挙区制で、各選挙区の議員定数は次のとおりであった。

第一選挙区(旧千手)

第二選挙区(旧上野)

第三選挙区(旧橘)

第四選挙区(旧仙田)

合 計

八名  
四名  
五名  
九名  
二十六名

8月30日 農業委員会委員選挙

11月30日 農業センター完成

12月3日 役場庁舎落成式

|        |          |
|--------|----------|
| 4月27日  | 室島橋完成    |
| 4月     | 山王原開田終わる |
| 8月21日  | 橘診療所竣工式  |
| 8月22日  | 仙田小学校高倉分 |
|        | 校竣工式     |
| 10月31日 | 栄橋起工式    |

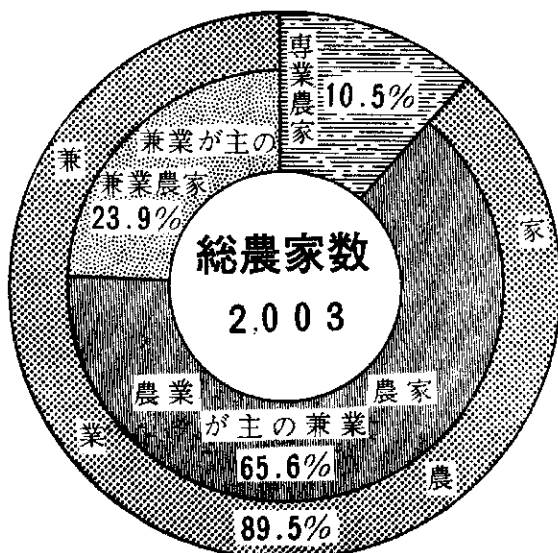
## 35年 意気あがる町民運動会



第2回町民運動会で特別演技をみせる高田高体操チーム

5月30日 文化財総合調査報告書「かわにし郷」刊行  
7月31日 合併千手神社せん宮式  
8月17日 第一回町民運動会  
8月23日 上野で老人クラブ「ときわ会」誕生  
9月6日 福小学校危険校舎改築工事竣工式  
9月14日 町長選挙執行 中村壮吉無投票当選  
町議補選もあわせ行なう  
10月 川西町勤労者協議会発足

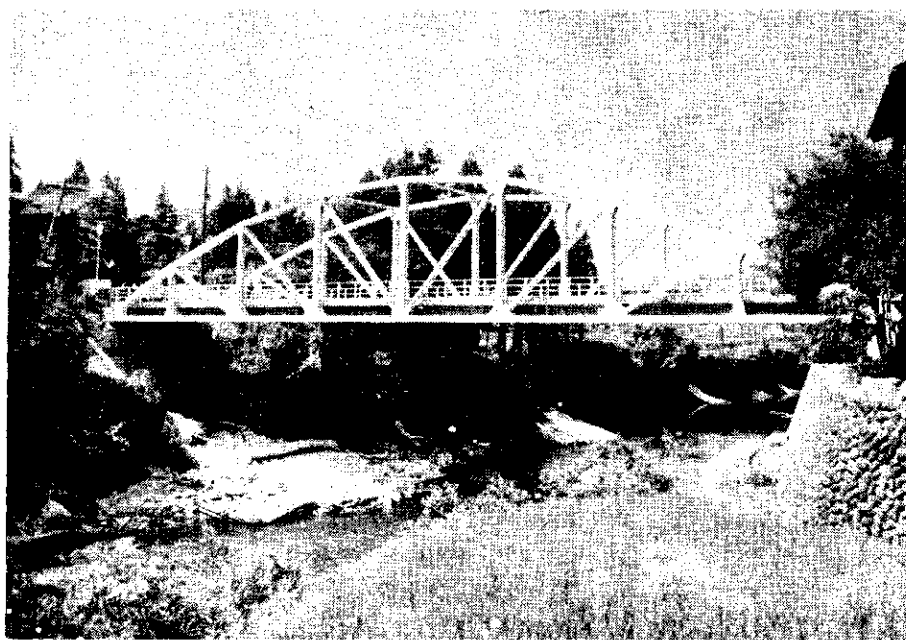
専兼業別農家数割合



昭和40年 2月 1日現在

## 36年 千手中・上野中を統合 川西中学校が発足

1月11日 赤岩婦人学級誕生  
4月1日 千手中と上野中を学校統合  
川西中学校発足  
5月1日 役場機構改革により現在の課制がスタート  
5月31日 中仙田小学校田戸分校廃止  
6月 伊友・新町・沖立の各部落で「昼休日」を設定  
7月16日 千手地区の中心街に街路灯完成  
7月20日 仙田橋竣工  
8月5日 町議会議員一般選挙  
大選挙区制で執行



新装なった仙田橋

10月12日 新潟県農業研修施設運営協議会総会を招致  
県下二十八町村が参加  
12月8日 川西町商工会設立

## 37年 交通安全町へ仲間入り



大活躍のマイクロバス

- 3月19日 川西中学校第一回卒業式
- 4月 公明選挙推進協議会が発足
- 6月1日 農業共済組合事業を受け入れ
- 7月10日 交通安全町宣言
- 8月10日 交通安全対策協議会結成
- 8月20日 法務局千手出張所十日町へ統合
- 11月6日 千手小学校で完全給食開始
- 11月12日 橋中学校工作室竣工式
- 12月2日 仙田中学校寄宿舎完成祝
- 12月6日 中央公民館現位置に移転  
十五日から新位置で業務開始

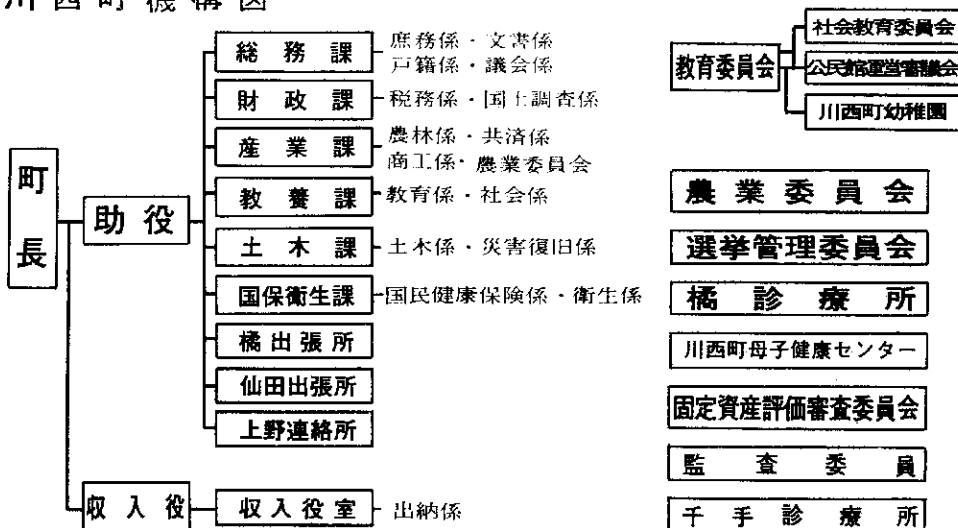
## 38年 学校の統廃合すすむ

- 1月12日 千手観音堂宇焼失
- 4月1日 仙田中学校第二分校廃止 白倉中学校新設



災害復旧工事が完成した南沢北沢地区

### 川西町 機構図



- 8月1日 川西地区農業改良普及所開所
- 9月1日 仙田中学校第一分校廃校
- 11月7日 上野小学校体育館竣工式
- 11月23日 取安川水路工事竣工式
- 11月23日 マイクロバス購入
- 12月5日 南沢北沢災害復旧工事竣工式





みごとに完成した栄橋の全景

栄橋<写真上>の完成にともない  
木落、上野間完全舗装化がすすみ  
上野、仙田間も大改良をめざして  
現地調査がすすめられている。

## 39年 栄橋完成 五カ年の工期

4月17日 節黒城観光道路開発  
5月31日 上野中心街に街路灯完成  
8月1日 ヘリコプターによる薬剤散布を実施  
9月1日 赤岩小学校完全給食施設完成  
9月1日 川西町長選挙執行  
9月6日 中村町長が三選  
9月12日 仁田大原の開田成る  
11月12日 栄橋完成

町の婦人学級 35年以来各地区にぞくぞく開設された  
現在、学級数34、在籍学級生1162名。  
学級生が自主的に立案した学習計画により、月1回開級  
するほか、テーマごとのグループ<72>学習が行なわ  
れている。



千手小学校プール



ペリコプターによる薬剤散布

5月14日 橘中学校特別教室管理棟焼失  
7月15日 千手小学校プール完成  
8月20日 川西中学校建設工事竣工式  
9月1日 上野・橘農協で有線放送開始  
11月10日 白倉にへき地教員住宅完成  
11月30日 川西中学校の特別教室が完成して五カ年に  
わたる同校の建設工事が終了

## 40年 母子健康センター完成 福祉町へ前進

12月25日 橘中学校災害復旧工事完成  
母子健康センター落成

# 41年町勢振展にあらたな 決意

## 十周年記念式典を 盛大に挙げる

4月1日 中越管内では最初の公立幼稚園を設け  
4月15日 橘小学校で完全給食開始  
4月27日 役場に電話交換台を設置  
5月11日 町営水道井戸掘さく工事入札  
7月16日 千手観世音本殿落成  
7月23日 千手郵便局舎落成  
9月1日 合併十周年記念式典

### \* 記念式典式辞 \*

## 合併十周年を迎えて

川西町長 中村 壮吉

近來にない暑い折からしかも、た心がけがよいだけに上司の方  
遠路わざわざ多数のご来賓を迎えた始め、関係のみなさんがた  
え、ここに川西町合併十周年の大きなご協力のもとに遂次で  
祝賀式を行なうことは慶賀にたはありますがそれぞれの施設、  
えません、りっぱな川西町に育ち、それぞれの与えられたものを完  
ててくださいましたみなさまに成させて十年を迎えさせてもら  
厚くお礼申し上げてあいさつ代いました。改めてお礼を申し上げ  
わりにさせていただきます。

ご承知のようにどの合併に 特に本日ここに表彰を申し上げ  
ついても合併前にそれぞれ約束 げる人たちについては特段のお  
があるように合併後にも時代に 難儀をしていただきましたこと  
即応した希望があり、しかもそ を併せてお礼を申し上げる次  
れが盛りだくさんで戦後におけ るです。私たちの町は小千谷市  
るなにかやと物心両面にひ と十日町のりっぱな市にはさま  
っぱくしておる時代については れた離れ小島の町です。どうか  
まことに困った大きな問題をか きようのお祝いの式典を通じま  
かえておりました。 してそして今後とも町の発展の  
しかしながら私の町は町民のみ ためにみなさんがたのよりよい  
なさんの心がけがよいのと、ま ご協力を願います。

他町村にさがけて開設した川西幼稚園



### うぶこえのカゲに

千手と上野は吉田と合併、橘は  
下条と合併したらどうか、でなけ  
れば、千手は十日町、川治、六箇  
吉田と合併、上野と橘は下条と合  
併するもよし、千手と上野だけで  
合併してもよい、仙田は一村のま  
ま現状維持でゆけ、というのが、  
町村合併促進法が施行された直後  
に県が示した合併構想であった。

この案が示されると川西郷の動  
きはガゼンあわただしくなった。  
まず、千手の首脳部が上野を訪れ  
千手、上野、吉田の三カ町村で合  
併しようとして話しかけた。上野は、  
大正期に合併交渉のあったいきさ  
つから橘も加えたがよいというこ  
とになり、橘と千手へ合併を申し  
入れた。橘は、住民の世論をきい

### ▽ 挙家転出 △

## 国保の異動届 けを確実に

一家こぞで、町外へ転出する  
世帯が見受けられますが、この事  
例の大部分の世帯が、未処分の資  
産の固定資産税や、転出証明(配  
給)の存置などのことと混同して  
国民健康保険の異動届けをしな  
い、そのまま、被保険者証を転出  
先へ持っていくままです。

このようなとき、その世帯の保  
険料を、親類、縁者がその後も立  
て替えて納めている例が数多く見  
うけられ、数カ月後にそれが判明  
して、被保険者資格の喪失時期の  
問題や保険料還付の事務などに、

大変なわずらわしいことがおこっ  
てきます。

このことは、いつも機会のある  
ごとに説明しているのですが、国  
民健康保険は、誰でも現住地の市  
町村国保の被保険者になるのが原  
則であって、本籍地や、資産のあ  
る場所などには関係がありません  
転出のときは、転出証明などの  
手続きと一緒に、必ず、国保の異  
動届けを出すとともに被保険者証  
を返し、保険料の精算などの手続  
きを完全にすませてください。

その後のあたらしい保険は、転  
出先の市町村の国保か、事業所の  
社会保険であらためて新規加入の  
届けをして、現住地と前住地の被  
保険者資格の効力をまちがえない  
ようにねがいます。

## 社会教育

て川西郷の大同合併となえ、真  
人もこれに同調したかに見えた。  
町村ごとにはん走の結果、千手  
上野、橘、仙田、真人、吉田の、  
川西郷六カ町村の首脳が千手に集  
まって協議した。吉田は経済が十  
日町へ依存していることを理由に  
絶対反対をととなえた。真人は産業  
面で提携していける  
下条との合併を望ん  
だ。上野と橘は合併  
後の中心部説を主張  
した。千手は、国鉄固定資産税が  
はいることもあって、財政的に恵  
まれない上野や橘が中心部になる  
ような合併はしたくなかった。

まとめることもなくもめて、月  
日は矢のようにすぎた。仙田は川  
西郷の大同合併を希望し、関係町  
村を歴訪した。橘もこれに賛成し

た。しかし、吉田は十日町に合併  
を申し入れ、真人は小千谷にかた  
むいていった。合併のカギをにぎ  
る千手は、上野と合併して大千手  
町を建設したい意向を表明した。  
吉田と真人が離れた川西郷の合  
併は、千手が中心になって推進し  
た。橘は、千手や上野ならともか  
かく、ボツンと離れ  
た仙田を含むのはム  
リだと主張した。こ  
のため冷却期間をお  
いたこともあったが、その後全面  
的に賛成すること表明し、また  
上野と千手の首脳部も橘と仙田を  
訪れ、対等合併の用意があること  
を申し入れた。こうして四カ町村  
の新設合併をきめる会議は、昭和  
二十九年十一月二日にひらかれた  
約束はしたけれど、町名は千手

# モーターバイクも 強制保険を

原動機付自転車(モーターバイク)が十月一日から強制保険をつけなければならぬ。また、耕うん機が強制保険をつけなくても運転できるようになりました。

「自動車損害賠償保障法の一部改正について」  
自動車損害賠償保障法及同法施行令が六月二十九日に改正され、自動車損害賠償制度が次のように変わりました。  
第一に一般にモーターバイクといわれている原動機付自転車が保障法の対象に加えられ、十月一日から強制保険をつけてください。

保険料は一年間で二千五百四十円です。強制保険をつけたら、保険会社から保険証明書と保険ステッカーを交付されますが、バイクはこの保険証明書を備えつけ、保険ステッカーを車体に表示しなければなりません。  
第二に農業協同組合及び連合会において強制保険に代わるものとして、新たに責任共済を行なうことが出来ることになりました。この結果、農家の場合は強制保険の代わりに責任共済にすることが出来ます。自動車運送することが出来ます。ただし責任共済の利用できる自動車は、農家の軽自動車及び原動機付自転車と組合の自動車に限られます。責任共済の始まるのは八月一日からです。

第三に七月一日から保険金の支払い限度額が死亡が百万円が百五十万円に、傷害が三十万円が五十万円に、後遺症が五万円が百万円が七万円に、後遺症が五万円にそれぞれ引き上げられました。現在締結されている契約についても七月一日以後発生した事故については新しい限度額で支払われます。

## 町議会報告 選管委員の改選等

### 十三日に定例会招集

- 九月定例町議会は十三日に招集される。予定されているおもな附議事件は次のとおり。
- 1 選挙管理委員及び補充員の選挙について
  - 2 教育委員選任につき同意を求めることについて
  - 3 損害評価委員会選任につき同意を求めることについて
  - 4 川西町国民健康保険条例の一部改正について
  - 5 昭和四十一年度川西町一般会計補正予算について
  - 6 昭和四十一年度川西町国民健康保険(施設勘定)特別会計補正予算について

## 出稼ぎされる方へ

昨年来出稼対策は県の重要施策となり、出稼者は安定所を通じて就労手帳の交付を受けて就労してまいりましたが、最近の出稼者の殆どが高賃金の職場を希望している。

## 県下議員研修会に参加

九月七日長岡厚生会館において県町村議会会長主催の県下町村議員研修会が開催され、町からも二十二名の議員が受講した。講師は政治評論家長谷部忠、講演の題名は「内外の政治情勢について」

## 老人福祉週間

## みんなでつくろう たのしい老後

本年は十五日の「敬老の日」が国民の祝日に加えられ、老後の生活を明るく、ゆたかにするため、すべての人が協力し、平和な家庭、

## 戸籍の窓から

うぶ声—御すこやかに

数藤 知美 榮一長女 沖立  
横山 敬 國六二男 中島町  
星野 直子 米一長女 発通  
今藤 朋子 清 長女 平見  
内山 靖子 興宣長女 上野  
清水 明幸 幸夫長男 下平新  
澤口 正人 洋一長男 野口  
高橋登美子 岑夫長女 野口  
五十嵐 実 幸男長男 野口  
五十嵐 幸子 新和長女 野口  
半田 泉 昌利長女 室 野  
茂野 厚子 徳三郎長女 藤 野  
登坂マリ子 直三女 赤谷

新田 山崎吉太郎 寺ヶ崎  
新田 森 頼子 東京から  
新田 高橋 勇 赤岩  
新田 野澤百合子 野口から

たかさこ—御円満に

佐藤榮三郎 七九  
南雲 リク 七六  
登坂 勝治 七五  
中條 正福 七四  
高橋 ラク 七三  
金子 カ子 六九  
星野福之丞 五六  
大沼 政男 四六  
羽鳥徳太郎 四〇  
仁 田 四〇

## 川西町長寿者番付

(昭和41年 9月1日祝)

| (東)        |    | (西)           |    |
|------------|----|---------------|----|
| 上村子之吉(上野)  | 95 | 横綱 田口 ヨ子(木落)  | 93 |
| 高橋 ナツ(神社町) | 93 | 大関 小海 磯吉(小根岸) | 92 |
| 丸山 ツヤ(新町)  | 92 | 関脇 大井 リヨ(中央町) | 91 |
| 南雲 スミ(中仙田) | 90 | 小結 高橋 ハル(赤谷)  | 90 |
| 樋口 イ子(下平)  | 90 | 前頭 小川 キミ(赤谷)  | 89 |
| 根津 久蔵(原田)  | 89 | 大平 リト(原田)     | 88 |
| 田畑 熊蔵(元町)  | 88 | 江口 コン(小白倉)    | 88 |
| 村越 菊蔵(野口)  | 88 | 小幡 トラ(木落)     | 88 |
| 田中 庫蔵(小白倉) | 88 | 富井 ヨ子(上野)     | 87 |
| 川崎 ムメ(越ヶ沢) | 87 | 高橋 ミイ(高倉)     | 87 |
| 内山 常司(新町)  | 87 | 高橋 キイ(四郎兼)    | 87 |
| 江口 仲蔵(小白倉) | 87 | 清水 恒太(下平)     | 86 |
| 廣田 ノイ(沖立)  | 86 | 小林 直三(中島町)    | 86 |
| 星名 ツナ(霜条)  | 86 | 小林 コヨ(中仙田)    | 86 |
| 中條 ミネ(岩瀬)  | 86 | 宮 ソメ(発電通)     | 86 |





# 母子健康センター

## 安心して お産できる施設

入所者座談会

ことし一月から業務を開始した母子健康センターが、町民の施設として今後ますます、安心して利用していただけるようにと、八月二十日、上野の同センターで入所者をお招きして座談会がひらかれた。町からは平沢国保衛生課長と上村衛生係長が出席したほか、実際の助産、指導部門を担当する和田、関口、高橋保健婦と、助産婦の太田ケン、清水タカ、戸田貞子、和久井タツ子、小林マサ、中条セイ、押木モト、江口ソミ、大野イシさんが顔をそろえ、この施設で安産した井川マスイ(新町) 小林アヤ子(中仙田) 小幡若子(仁田) 江口キイノ(野口) 田村ハルイ(鶴吉) 永井ツヤ(木落) 渡谷サナ子(中央町) 高橋美代志(学校町)のみなさんを中心に金子社会教育主事の司会で活発な話し合いを行なった。

### 利用者の 声を聞いて

声

はじめに、平沢課長から、母子健康センターは、健康な人づくりの基礎となるおかあさんの、妊娠中の検査や指導と、生まれた乳児の育児指導を完全に行なうために、妊産婦、乳幼児の登録管理を行なうと共に、一部に助産施設を併設して妊産婦をお預りし、衛生的で完全なお産が行なわれるようにという目的で、町が六百七十万円の



### 困習打破の 動機づけにも

この話し合いで注目されたのは衛生的な、デラックスな施設で、助産婦さんを信頼して、いざさかの不安もなく産むことができてほんとうによかった、と、入所者の全員がクナをそろえて言ってくれたことである。そして、何よりの副産物は、初孫は嫁の家族でという昔のしきたりや、これにともなうお産見舞などの儀礼的なわずらわしさは、このセンターの実現に

### 町から贈る ベビー用品

よすすてに昔のものになったという気がしたことであろうか。入所中は、助産婦さんが産婦の栄養や着た上で食べきれないほどのお粥やスープをしてくれた。この春には、田の助産婦さんがめずらしい山菜を取ってきて食膳をにきわしてくれたりしたことが感謝された。産後まもなく、ろう下を急ぎ足で通り過ぎる助産婦さんのスリッパの音や、ドアのガチャンという音が気になった、という声があり、これに対して、大事な命を預かっているという急ぎ足になり、心せくまま大きな音をたててしまったりするが、これからはよく注意する、という助産婦側の答えがあつた。

入所中はマクラが低すぎた。フロンが重すぎてベントからすぐ降り落ちてしまふ、うすくて軽いフロンにしたらどうか。暖房がよくききすぎた。お風呂は、一週間の入所で一万六千円の入所料は高くない。面会の時間をもつと短縮してもらいたいし、夜間は九時以降の面会を禁止してほしい。退所の際に、町から二千円相当のお祝品をもらすが、その中にはいつているオムツカバーは小さすぎる、みんなが事前に準備して入所するのだから、もっと大きいカバーがほしい、という声には、センターに入所する人には、ベビーは着やカバーなど、町で祝品として贈るので事前に準備しないで心配なしに入所してほしいし、これから利用する人にはみなさんか

らおおいに宣伝してほしいという保健婦さんの答えがあつた。退所してから最初の乳児検診までの期間に指導を受けられないので心ばそい、もつとこまかに事後指導してもらえたら、などという声が続つぎときかれ、保健婦、助産婦さんたちは、いちいちうなずきながら、真剣なまなざしでメモ帳に鉛筆を走らせていた。

### 欲しいものが いっぱい

最後に、助産婦側から、この施設をさらによりよいものにして満そくしていただくために、台所のカゴ、電気をつなぎコードとコンセント、お湯茶わん十個、献立用のキツナン、スケール、電気アイロン、事務室の本たて、カヤ、電気掃除機、テレビ、せんたく機をもう一台など、早急に備えてくれるようにという強い要望があり平沢課長と上村係長は、一日も早く善処することを約束して幕を閉じた。

## 愛の 協力募金

青少年の非行を防止し、犯罪のない明るい社会をつくらんと「社会を明るくする運動」について、町民の皆さんの深い理解とご協力をお願いいたします。先般、浄財募金をお願いしたところ、総額八万四千五百八十四円となりました。このお金は保護観察協会へ送られ

これらの仕事の基金となります。皆様のご協力を感謝し報告いたします。なお、小冊誌「ともしび」第六号を回覧いたしましたのでご同読をお願いいたします。  
川西町保護司会

## 才二回の献血日

10月27日と決定

国鉄公舎地区における第一回の集団献血にひきつづいて、こんどは金町民を対象として、約百人の献血を予定しています。場所及時間については未定ですが、決定したお知らせいたします。前回と同様、町民のみなさんによる善意の献血を心からお願いたします  
衛生係、社会係

## かわにし 俳壇



○夏秋や飛べばななる風の蝶  
好きな酒供へて通夜の蚊やりかな  
寺尾、高橋、童子  
土用明けの航空防除に煙る朝  
大袋納屋横切つてゆきにけり  
中原敷、小林たみい  
黒々と夏木立あり遠花火  
小白魚、江口、凡石  
噴水に虹あり錦鯉光る  
小白魚、田中、翠歌  
葉たはこめ水機せし照り続く  
本島、数勝ひさは  
山頂に立つ鉄塔の西日受く  
大倉、金子、洋石  
鈴虫の澄む夜の夜店たたみけり